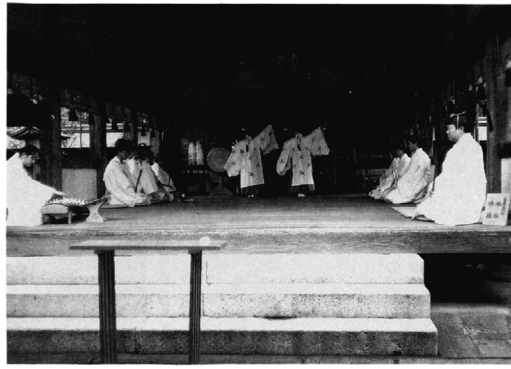


建国祭齋行

我が国の誕生を祝い 皇室・国家の弥栄を祈念



一月末迄の寒気も緩み、二月には近年にない温暖な日となった。二月十一日「建国記念の日」。我が国の誕生を祝う建国祭が厳粛に齋行された。

時刻 養父宮司以下奉仕神職・巫女、参列者が参進、所定座に着座し祭典を開始。神武天皇創始以来の日本の国体護持と皇室・国家・国民の弥栄を祈念して、宮司が祝詞を奏上、統一して巫女による浦安舞の奉納、玉串拝礼と執り行い滞りなく終了した。

この「建国記念の日」は本来「紀元節」と称し、我が国の建国の起源を想起し、民族の歴史と将来を考える日である。宮中におかれら「奉祝自動車パレード」「奉祝紅白餅敷」の奉祝行事を行うことで、一挙に大綱が出来上がり当日を迎えた。

二月十一日、前日迄の雨も上がり、快晴の中、午前十一時中津宮本殿に於て、村内氏子・各界代表等多数参列の下、紀元祭典が厳肅に齋行された。

祭典終了後、国旗・太漁旗・万国旗・風船等飾り付けた軽トラック四台に、前日掲ぎ上げた紅白餅・地元商店奉納の菓子を持ち、奉賛会・翼賛会・敬神婦人部・青年団有志が祭典装束に身をこみつみトラックに乗車、午前十一時半過ぎ、先導車の太鼓を軒下に中津宮を出発、各戸の軒下に掲げられた国旗の丸と人々の波の中をパレード、各所に於て餅敷が行われ、千余名の村民挙げてこの慶事を奉祝した。

筑前大島 紀元祭・同奉祝パレード執行



皇紀一千六百五十年の慶祝すべき年に、当る本年の紀元祭は、全国各地で盛大厳肅に齋行されたが、こゝに玄界灘筑前大島に鎮座する、宗像大社中津宮に於ても、村民挙げてこの歴史的に記念すべき年の紀元祭を祝った。

本年の紀元祭齋行にあたり、特に意義あらしめるため、沖中両宮奉賛会(河野幸人会長)・同翼賛会(丸井房芳会長)・敬神婦人部(船越絹子部長)の三者代表者会議が何度も開催され、その席上古賀評議員より餅米一俵の奉納申し出があり

復活に結び付くのだろうか。家庭の玄関に国旗を掲げ、国民挙げて国家の成立をお祝いすることは、ごく自然である。戦後、荒廃した我が国が国民の団結と努力により、驚異的な復興を遂げ、世界の中でも重要な地位を確立するに至った現在、そして激動する世界状況の中に於て、経済的な役割ばかりでなく、日本古来の文化・伝統と「互恵互助」の精神を、世界の平和に認識してもらい、世界の平和と共存共栄とを図るよう推進することこそ、我が国に課せられた責務ではなからうか。

平成二年度(第三十一期) 宗像大社奨学生選考会開催

去る二月二十七日、当社社寮館に於て、宗像郡市内中学校十校の校長先生と養父宮司並びに担当職員による、当大社奨学生二十名の選考準備会が開催された。当大社の奨学金制度は、今上陛下の御成婚を記念して昭和二十四年十一月に設立され、翌三十五年四月二十九日の祝日「天皇誕生日(昭和天皇)」に第一回目の支給が開始された。

昭和三十年間、毎年奨学金を支給し、受給選定書第一号が大島中学校出身の日原信也さんに授与されてより、平成元年四月二十九日に河東中学校出身の中村英樹君に授与される迄の間、四百名の奨学生が誕生し、受給開始当時の中学校は六校であったが、宗像地区のヘッドタウン化により、数年の間に人口が急増、昭和五十五年(日里)の中津宮中学校、更に同五十八年(自由)丘中学校、同五十九年には河東中学校と次々に増設され、現在に至って三名の奉仕により、氏子十

宗像大社 春まつり(保存会) 御案内

春の大祭を左記行事日程で齋行致しますので、皆様方お話し合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

平成二年三月吉日

宗像大社 事務所

記

三月三十一日 午後五時 総社地主祭
午後六時 宵宮祭
四月一日 午前十一時 大祭(氏子奉幣、主基地方風俗舞、浦安舞)並びに交通安全講話祭(献土若布採取者表彰)
午前十二時 宗像護国神社祭
高宮祭
第二・第三宮祭
献茶祭(南坊流小方社中)
午後二時

四月一日 午前八時三十分 奉納道大会(於境内・本殿敷)
境内・本殿敷)
奉納吟詠大会(於清明殿)

四月二日 午前八時三十分 奉納道大会(於境内・本殿敷)
境内・本殿敷)
奉納吟詠大会(於清明殿)

四月三日 午前八時三十分 奉納道大会(於境内・本殿敷)
境内・本殿敷)
奉納吟詠大会(於清明殿)

孔大寺神社例大祭

鶯の声とそよぐ風の音

三月二日(金)、四塚連山の最高峰孔大寺山中腹に鎮座する、孔大寺神社の例大祭が齋行された。毎年恒例に当大社から、毎年恒例により神職一名が献幣使として奉仕された。

当日は昨日迄の雨も止り、薄日が差し鶯の鳴声も聞かれ、例年だと雪化粧の孔大寺山も、今年は春の訪れがかなり早いようであった。祭典は午前十一時、神職三名の奉仕により、氏子十

数名と玄海町長和田延氏氏が参列して執り行われ、祝詞奏上、献幣詞奏上、玉串拝礼と滞りなく終了。素朴な中に厳肅で自然と溶け合った祭典が神奈備の森の中で齋行された。

このお祭りも以前は麓に露店が軒を並べ、家族連れや子供連で賑わっていたそうであるが、現在は、一抹の寂しさを感じる。しかし氏子の方々の敬虔な祈りは、現存も昔と変わることなく受け継がれている。

三十六歌仙扁額(五) 楽松子 宗像大社の「州信」印三十六歌仙扁額

年号	資料一年表	宗像大社関連およびその他
永祿九	一五六六	狩野永徳および一門関連
一〇	一五六七	二月十六日、松栄、宮廷の注文で扇を製作(御湯殿上日記)
一一	一五六八	大徳寺宗光院時雨の制作に松栄・永徳携わり、四季花鳥図(松栄・永徳携わり)を描く(宝山誌抄)
一二	一五六九	五月十九日、六月十五日、七月二十日、十月三日、永徳、近衛家の襖絵を描く(言繼卿日記)
一三	一五七〇	二月二十四日、永徳、近衛家の襖絵を描く(前年より継統か)
一四	一五七一	五月九日、永徳、近衛家で葛粉に絵を描く(言繼卿日記)
一五	一五七二	松栄おそろく豊後の大友宗頼を頼って西下の途中、巖島神社に立寄る。
一六	一五七三	一月三日、松栄、巖島神社絵馬(源綱珠、城門、男、女)を献納(巖島絵馬鑑)
一七	一五七四	松栄、このころ、二十四孝図屏風を描く(巖島)
一八	一五七五	十一月、多賀大社に「三十六歌仙図」松栄、が献納される。
一九	一五七六	六月、松栄、承天寺境内図を描く(兼見卿記)
二〇	一五七七	永徳、次男孝信、生る。
二一	一五七八	三月二十八日、松栄、宮廷用屏風を制作(御湯殿上日記)
二二	一五七九	七月、松栄、勅命により、湯殿上日記を描く(御湯殿上日記)
二三	一五八〇	十月十八日、松栄、吉田兼石肖像を描く(兼見卿記)
二四	一五八一	三月下旬、織田信長、上杉謙信に永徳筆、洛中洛外図屏風を贈る。(上杉年譜、北越軍記)
二五	一五八二	十月、松栄筆、玉串肖像の記事あり。(玉串遺文)
二六	一五八三	五月三日、十三日、狩野、宮中の扇絵・屏風絵を描く(御湯殿上日記)
二七	一五八四	一月十六日、四月三日、狩野、宮中御用の扇絵を描く(御湯殿上日記)
二八	一五八五	二月十三日、信長、安土城築城を命ずる(信長公記・総見記)
二九	一五八六	八月五日、狩野扇十本を佐竹家へ下賜(御湯殿上日記)
三〇	一五八七	正月、秀吉、永徳に鞍の意匠図案を命ずる。永徳筆、葦穂時給鞍(信長公記)
三一	一五八八	正月、安土城御殿に永徳筆の「濃絵三國所図」あり(信長公記)
三二	一五八九	十一月二十日、宗像大社、大津宮第一宮本殿棟上(第一宮本殿棟上置札)
三三	一五九〇	五月二十八日、宗像大社、大津宮第一宮本殿棟上(第一宮本殿棟上置札)
三四	一五九一	七月十八日、室町幕府滅亡。
三五	一五九二	七月十八日、室町幕府滅亡。
三六	一五九三	七月十八日、室町幕府滅亡。

宗像族の新たな墓域を発見

津屋崎町「井手ノ上古墳」



二月十三日、津屋崎町宮司の「井手ノ上古墳」の概要が、町教育委員会により発表された。

古墳は、高地嶽神社民家村公園の南側に隣接する、標高五二メートルの丘陵上に構築された円墳である。丘陵一帯は土砂採取場として活用され、様相も変貌してきている。昨年五月に円墳が新たに確認され、十月末から発掘調査が行われている。この古墳は昭和四十七年の分布調査でも、確認されておらず、県教育委員会発行「福岡県遺跡等分布地図(宗像郡編)」に記載されていない。しかし、土砂採取中の今回の様な発見はよく聞くことでもある。

古墳は墳丘の直径が二六メートル、高さ三・五メートル。墳丘上は栗石を中約一・五メートルの帯状に敷き、土砂採取中にこの様な発見はよく聞くことでもある。

被葬者は四十歳代の男性といわれているが、若干小振りの様でもある。若十(縦一・八メートル、横五・五メートル、深さ五・三メートル)が構築されていた。石室は江戸時代にすでに盗掘をうけており、床面の礫石敷は確認されたものの、それ以外の発見はなかった。この石室の天井部と同レベルの高さで、約一メートル離れた所に板状の石による縦一・七五メートル、横五・五メートル、深さ三・九メートルの石棺が一基見られた。一枚岩の石蓋縦二・二メートル、横八・五メートル(二)で密閉された状態に、床面には小さな玉石を敷きつめていた。そこよりわずかに離れた上層の墳丘表土層部に、蓋石四枚組み合せの縦一・七メートル、横五・五メートルの土坑墓が掘られていた。この円墳はそれぞれ形式を異にする、三基の埋葬施設が造られている。

石棺の内面はガンベラか水銀朱かはまだ不明であるが、朱色がまだ残っている。この朱は被葬者の顔面にも付着している。棺内には鉄製三角板と近い状態に埋まっていた。この古墳の築造は、出土遺物等から考えて五世紀前半代に比定される。

対面する丘陵地地帯に、津屋崎の海岸線は一大古墳群が形成されている。津屋崎の海岸線は一大古墳群が形成されている。

津屋崎町の運動公園「あんずの里」完成間近

豊かな自然に囲まれ、玄界灘を一望できる風光明媚な、宗像郡津屋崎町勝浦の丘陵地帯に建設中の、津屋崎町運動公園「あんずの里」がほぼ完成、町民や近郊の人々にとって、絶好の憩いの場となっている。

この運動公園は、同町の「独自の文化、風土を生かした魅力ある町づくりの実現に努める」という基本方針に基づき、町民福祉の充実を図ると共に、広域圏に寄与する観光・スポーツ・レクリエーション施設として、この建設が企画され、昭和六十一年に着工した。

同公園は、野球場(約二万一千平方メートル)、ソフトボールコート(一面、更に二百メートルトラックとして使用できる多目的グラウンド七千七百平方メートル)、テニスコート(二、二千四百平方メートル)にあんず園(二ヘクタール)のスポーツ施設と、展望広場、現在その内容を計画中とされている。あんずの里に於ける、二世一代の重要御儀の御奉納された主基地方風俗舞の保存会、昭和天皇御即位の御奉納された主基地方風俗舞が、御大礼の翌年に宮内省の特別の恩恵により当日日迄伝承、神前にて奏される。今回の旅行で委員一同、この舞の伝承が如何に重要なものであるかを再認識したようである。

(社)全日本菊花連盟

西日本地区菊作り研修会開催

同 審査員研修会開催

去る二月二十四日・二十五日の二日間、玄海町鐘崎の国民宿舎ひびきに於て、社団法人全日本菊花連盟西日本地区菊作り同審査員研修会、主催「全菊連」同連西日本地区各支部、後援「宗像大社」宗像大社菊作会が、全菊連本部より常務理事・事務局長竹田誠一、常務理事・総務部長内田孝一両氏を講師に招いて開催された。

熊本、大分、佐賀等の各地からも出席を得て、参加者は一〇〇余名を数えた。

初日は、午後一時前より受付を開始、午後二時開会式を執り行い、開会式終了後の午後二時半からは、内田孝一講師により「切花の要点」と題して、切花の切花向け栽培の講義が、午後四時半過ぎまで約二時間に亘って行われ、講義の後には活発な質疑応答も行われた。

約三時間に亘る講義に参加者もいささか疲れた様子であったが、休憩・入浴後の午後六時から、西日本地区合同懇親会が催され、各自の自己紹介、創作技術の交換等について、和やかな雰囲気の中、懇話会に終った。

二日目は、午前九時過ぎより「審査員の心得及び審査の要点について」の講義を竹田誠一講師より受け、審査する時の基準及び注意事項の説明、審査員の服装は「背広着、ネクタイをする」等の指導を受けた。

有意義なものであった。尚研修会開催に当たり、協力部員並びに宗像大社菊作会役員の皆様方に、誌面を以て厚く御礼申し上げます。

大嘗祭主基齋田跡見学

主基地方風俗舞保存会

当社春秋の大祭の折に奉納される、主基地方風俗舞の伝承を目的として結成された、主基地方風俗舞保存会一行十六名が三月十一日の両日、主基齋田跡の見学を主目的とした研修旅行を行い、今秋施行される今上陛下御即位に伴う大嘗祭を考える上でも、大変有意義な旅行であった。

福岡より佐賀県に通じる早良街道沿の福岡市早良区脇山にある主基齋田跡に到着した一行は、直ちに齋田跡を見学した。脇山小学校近くに「昭和の御大禮、主基齋田跡」の標識があり、そこを真直ぐに入った林道の両側に、お茶の木で囲まれた齋田跡(二)がある。

その正面奥に、主基齋田跡の石碑が建てられており、裏面に大嘗祭の概説が記されている。当時の齋田を想像しながら、この山紫水明な地を見渡せば、候補地三ヶ所より各種調査の結果選定されたことが成程と頷ける。

大嘗祭は歴代天皇が御即位に開かれ、玄界灘を一望できる風光明媚な、宗像郡津屋崎町勝浦の丘陵地帯に建設中の、津屋崎町運動公園「あんずの里」がほぼ完成、町民や近郊の人々にとって、絶好の憩いの場となっている。

社務日誌抄

二月一日 月次祭
出光興産(株)名古屋支店 長脇谷剛氏・日章運輸(株)代表取締役堀田弘郎氏外十三名参拝
二月二日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月三日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月四日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月五日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月六日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月七日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月八日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月九日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月十日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月十一日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月十二日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月十三日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月十四日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月十五日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月十六日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月十七日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月十八日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月十九日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月二十日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月二十一日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月二十二日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月二十三日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月二十四日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝
二月二十五日 新出光(株)社長出光氏外十三名参拝

